

各 位

会 社 名 大塚ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 樋 口 達 夫
(コード番号：4578 東証一部)
問合せ先 IR部 IR担当部長 木 村 琢 磨
(TEL 03-6361-7411)

第一次中期経営計画の策定について

当社グループは、このたび 2011 年度を初年度とする今後 3 年間の計画として第一次中期経営計画を策定いたしました。その基本戦略は以下のとおりです。

記

当社は 2008 年 7 月に純粋持株会社として設立された後、グループ全体の再編を通じて新しいガバナンス体制を構築してまいりました。第一次中期経営計画では「Otsuka-people creating new products for better health worldwide」の経営理念のもと、グループ総合力を強化してより強固な経営基盤・企業体質を確立してまいります。

<本中期経営計画の位置づけ>

第一次中期経営計画の位置づけを“「医療関連事業」と「ニュートラシューティカルズ^(注) 関連事業」を両輪とするグローバルヘルスケア企業として世界トップクラスを目指す体制整備に目処をつける 3 年間”とし、主な施策として以下の 3 つの項目を掲げています。

(注) nutrition(栄養)+pharmaceuticals(医薬品)の造語

- 革新的自社医薬品の育成
- ニュートラシューティカルズ関連事業利益成長のための収益構造改革
- 戦略的提携等による次世代事業の育成

<2013 年度経営目標>

	2010 年度実績	2013 年度目標
売上高	10,902 億円	13,300 億円
(海外売上高比率)	47%	50%
研究開発費	1,645 億円	2,000 億円
営業利益	1,175 億円	2,000 億円
(営業利益率)	10.8%	15.0%
EPS	162 円	230 円
ROE	7.8%	10%以上

<重点施策>

本中期経営計画における重点施策として下記を掲げています。

- ① 医療関連事業での価値の提供と収益最大化
 - 医療価値最大化による継続的成長
 - 革新的新薬の創出
- ② ニュートラシューティカルズ関連事業の拡大と利益成長
 - 新製品導入およびエリア展開による発展
 - 収益性の改善
- ③ 次期中期経営計画への布石
 - 新規分野の育成
 - 変革をもたらすための仕組み作り
- ④ 企業価値最大化に向けた取り組みと株主還元
 - 成長投資・アライアンス戦略、財務戦略・株主還元方針
- ⑤ 長期事業戦略

本中期経営計画では、中長期的に成長させる事業分野を医療関連事業（治療薬事業、輸液事業）、ニュートラシューティカルズ関連事業とし、戦略的に取り組む事業分野として、医療機器事業、大豆ビジネスと定義しています。

<株主還元策>

経営目標を着実に達成することで、継続的な企業価値の拡大と、それを通じた株主還元の向上に取り組めます。

今後とも大塚グループは、“ものづくり企業”として独創的な価値ある製品を創出し、世界中に広めることで、持続的な発展を遂げ、社会に貢献してまいりたいと考えております。

皆様の尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

見通しに関する注意事項:

- 本資料には、当社及び当社のグループ会社（以下当社と併せて「当社グループ」という）の財務状況、経営成績、事業等に関する将来予想の記述が含まれております。かかる将来予想は、その性質上、発生の可能性が不確定な将来の事由や環境等に左右されることから、当該記述には、リスクや不確実性が内在しております。そのため、実際の財務状況、経営成績、事業等が、かかる将来予想と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知願います。
- 新しい情報、将来の出来事又はその他の事由により、将来予想の記述に関し、更新又は修正が望ましい場合であっても当社は、それらを行う意図を有するものではなく、また、義務を負うものではありません。